

# フォーラム「高知の生物多様性 学ぶ人と守る人の出会い」

## 完了報告書

### 【平成 27 年度高知県豊かな環境づくり総合支援事業費補助金補助事業内容】

事業名 フォーラム「高知の生物多様性 学ぶ人と守る人の出会い」の開催

#### 事業内容の概要

高知の生物多様性について研究者等によって得られた科学的知見と、生物多様性保全等の活動を行っている NPO・市民団体・事業者等の活動や成果を、同じ会場でポスター発表形式で紹介することによって、研究者と保全活動グループや事業者の出会いを創出し、両者の活動の相乗的な促進を図る。また、一般の県民にも参加を呼びかけ、高知の生物多様性に対する興味を喚起し、今後の地域生態系保全ならびに人と野生生物との共存について考えるきっかけを提供すると共に、高知県が計画している生物多様性戦略推進リーダー養成事業に資する事を目的とする。

事業期間 平成 27 年 9 月 15 日～平成 28 年 1 月 31 日

事業費予算 510 千円 内補助金交付予定額 500 千円 事業支出決算額 496 千円

事業実施団体名 高知生物多様性ネットワーク

### 【フォーラム実施結果】

- 開催日時 平成 27 年 12 月 13 日(日) 9 時～16 時
- 会場 高知大学朝倉キャンパス 共通教育棟 210, 211, 212 講義室
- 主催 高知生物多様性ネットワーク
- 共催 高知大学・土佐生物学会
- 後援 環境省中国四国地方環境事務所・高知県・高知県教育委員会・高知市教育委員会・高知新聞社・共同通信社高知支局・朝日新聞高知総局・読売新聞高知支局・RKC 高知放送・高知ケーブルテレビ・KUTV テレビ高知・エフエム高知・NHK 高知放送局・KSS 高知さんさんテレビ・高知県漁業協同組合連合会・JA 全国農業協同組合連合会高知県本部・株式会社相愛・株式会社西日本科学技術研究所・四国環境パートナーシップオフィス・特定非営利活動法人環境の杜こうち・四国生物多様性ネットワーク
- 事業の進行  
平成 27 年  
9 月 15 日 補助金交付決定  
9 月 15 日 第 1 回打合せ会（於高知大学理学部会議室）  
9 月 18 日 県環境共生課と打合せ  
10 月 23 日 第 2 回打合せ会（於こうち男女共同参画センター「ソーレ」3F えこらぼ）  
10 月 23 日 補助金概算請求（10 月 27 日受付）  
10 月 26 日 企画書・実施要項確定

11月6日 補助金概算払入金  
11月11日 後援依頼発送  
11月12日 チラシ・ポスター納品  
11月26日 第3回打合せ会（於高知大学理学部会議室）  
11月27日 県環境共生課と打合せ  
12月12日 会場準備  
懇親会（土佐生物学会と共催）  
12月13日 フォーラム開催  
会場片付け  
12月14日 支払等  
12月23日 アンケート等アルバイト発注  
平成28年  
1月5日 反省会  
1月15日 事業報告書作成

## 7 フォーラム進行の状況

8:30 開場  
9:00-10:00 参加者によるポスター貼り出し  
10:00-10:05 開会宣言・趣旨説明  
10:05-10:15 川口小学校児童による口頭の研究発表  
10:15-13:00 ポスター自由閲覧時間  
13:00-14:00 発表者によるポスター発表の説明時間  
13:00-13:30 奇数番号のポスター説明  
13:30-14:00 偶数番号のポスター説明  
14:00-15:00 カフェスペース会場において口頭発表2題  
14:00-14:30 高知県環境共生課 三好一樹課長補佐「豊かな生物を育む森林と林業」  
14:30-15:00 高知の山と海、地域の未来を考えるシンポ実行委員会 藤原奈穂  
「メガソーラーと大岐の浜」  
15:00-16:00 参加者によるポスター撤去  
16:00 フォーラム終了  
16:00-16:50 会場後片付け  
17:00 撤収

## 8 参加者等の状況

出展ポスター数：145点（資料1に出展ポスターの一覧を示す）  
ポスター出展者（団体）数 68人（団体）  
来場者数：約200人

## 9 マスコミ対応 テレビ高知「がんばれ高知eco応援団」取材・対応 1月10日11時～放送

## 10 アンケート調査

本フォーラム及び高知県の生物多様性保全の取組に関する参加者の意識を知る目的で、アンケート調査を実施した。資料2に参加者に配布したアンケート用紙を示す。

アンケートの配布数は約100枚（概数）、回収数は59枚だった。アンケート結果から、参加者がフォーラムの開催を知ったのは主催者からの告知および主催者が関係団体等に配布したチラシによるものが多く、結果として生物多様性についてある程度の知識のある層が参加したものと考えられた。参加者からの意見として、展示されたポスターの内容は多分野にわたっており、生物多様性の間口の広さや県内に非常に様々な取組があることがわかって良かったという肯定的な意見が多かった。また、生物多様性のロゴマークはまだほとんど県民に浸透していないこと、今回のフォーラムのような取組を継続的に実施することが望まれていることなどがわかった。アンケートの詳細な結果は資料3にまとめて示す。

## 1.1 事業成果と課題

平成 27 年 12 月 13 日に高知大学朝倉キャンパスにおいて、研究者等によって得られた科学的知見と、生物多様性保全等の活動を行っている NPO・市民団体・事業者等の活動や成果を、同じ会場でポスター発表形式で紹介することによって、研究者と保全活動グループや事業者の出会いを創出し、両者の活動の相乗的な促進を図ることを目的に、フォーラム「高知の生物多様性 学ぶ人と守る人の出会い」を開催した。

ポスターの出展者数 68 人（団体）、出展ポスター数 145 点、口頭発表 2 題はほぼ目標を達成し、生物多様性に係る活動に取り組んでいる多様な主体による多様なジャンルでの多様な取組を紹介するポスターを展示することができた。参加者数は約 200 名で、行政・NPO・市民団体・研究機関・自然保護団体・動植物園等関係者および農学系・理学系の大学生など、もともと生物多様性に関心のある層が中心だったが、小中高校の児童生徒、学校関係者の参加も得る事ができ、参加者に生物多様性の視点を伝える事ができた。中でも大学生を中心に小中高校の児童生徒など若い方々の参加を多数得る事ができたのは大きな成果であった。

一方で広報等が不十分だったことが原因で一般の県民の参加は少なく、生物多様性保全の取組を通常の社会経済活動に組み込む、いわゆる“生物多様性の主流化”を進める上で課題が残った。

参加者の層に偏りがあったことから、参加者の感覚が県民の平均的な意識を表すとは言えないが、ポスター展示会場では常時あちこちでポスター出展者と意見交換をする参加者の様子が見られ、出展者がポスターの前で説明をする「コアタイム」には、特に児童生徒による発表の場所ではパネルの間を自由に歩けないほどの賑わいが見られた。参加者からは、生物多様性の間口の広さへの驚きや、高知県内でこれほど多様な活動が多数行われていることは知らなかったといった言葉が寄せられ、また、フォーラム全体の感想としては勉強になった、良かった、今後もこのような取組を続けて欲しい、という反応が多く寄せられた。

口頭発表では、高知県環境共生課の三好課長補佐によって豊かな森林が豊かな生態系を育むことがわかりやすく説明されたあと、大学生グループより、高知県内で森を削って作られようとしているメガソーラーの是非について問題提起が行われた。午前中にも講演・口頭発表枠を設けた方がよいとの声もあったので、今後の参考にしたい。

事業の運営上の課題として、本フォーラムが豊か補助金の二次募集での採択案件となったため、準備の開始が9月中旬からとなり、準備期間が3ヶ月と短かったため、フォーラムの運営や広報に不十分な点が多く遺された。次回このようなイベントを開催する時には、少なくとも6ヶ月前には準備を開始できるよう、補助金等の予算については早期に獲得することが必要である。

様々な過不足はあったものの、多くの参加者にフォーラムの意図を伝える事ができたこと、大学生を中心に小中高校の児童生徒など若い方々の参加を多数得る事ができ、学びの場、気付きの場として肯定的な意見が多く寄せられた。特に高校生グループからは、これまでにない学外での発表体験と各層からの多様な意見が得られる場として貴重な機会であると喜んでいただいたことから、このような事業を今後も定期的に継続し、一般県民や事業者の参加を増やす工夫をすることにより、生物多様性の保全と資源の持続可能な利用をさまざまな社会経済活動の中に組み込む“生物多様性の主流化”に貢献していきたい。

資料1 記録写真



フォーラム会場入り口



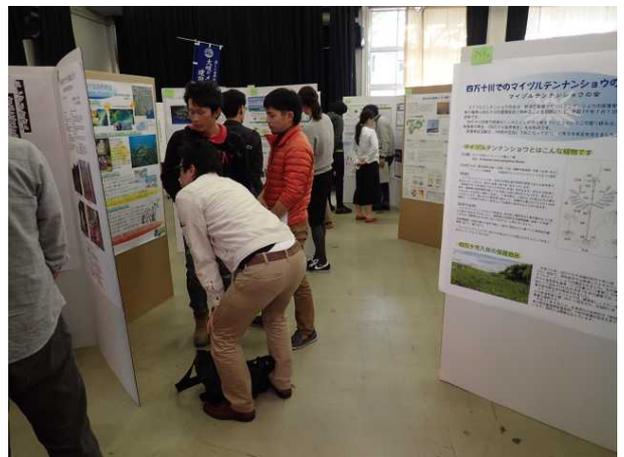
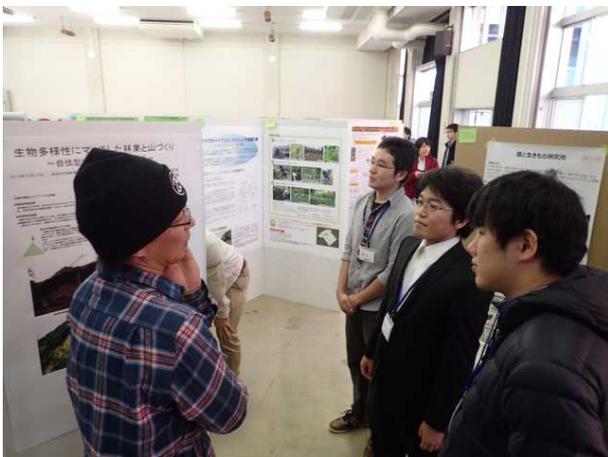
ロビー受付



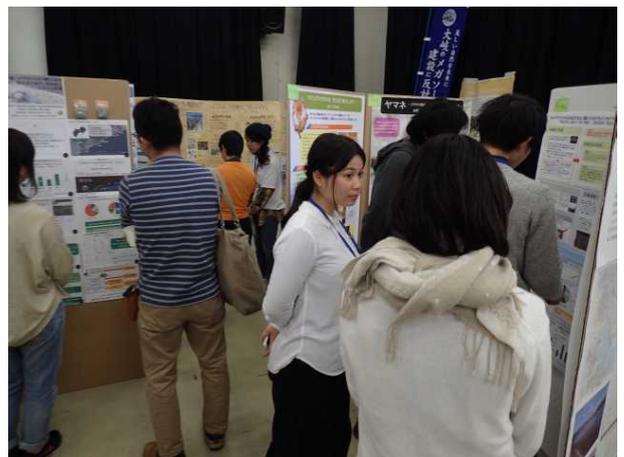
ロビー内の展示（三嶺の森をまもるみんなの会）



四万十町立川口小学校の発表



ポスター発表会場の様子





高知県環境共生課三好課長補佐による講演



カフェと口頭発表の聴衆



環境絵日記（環境活動支援センターえこらぼの展示）